鳴原合戦記

異本

下

巳夢十四

リ伊5
1873
3

山名氏藏書

鳥原記巻下

一　元日原乃城攻事

[illegible]

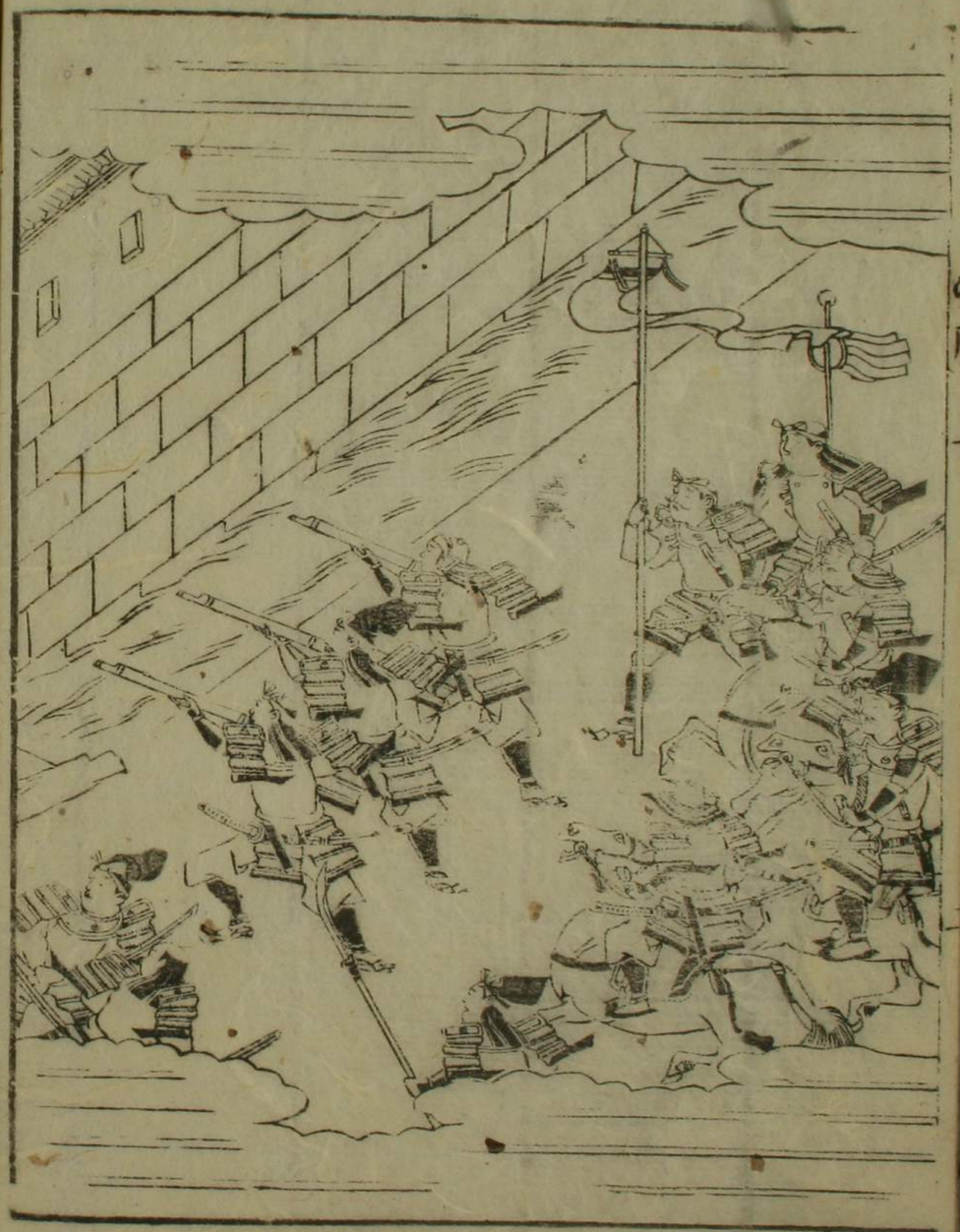
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



て[illegible]らのこのあつめけうあるくらせ[illegible]人[illegible]の[illegible]勝[illegible]と
[illegible]てあるひらをあつめくしらさ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細川の軍勢と出張してきたと
ばかりに勇みかゝるとあの国ゝの数出さるべきひ松が
さのてちうちんをれいひとれたるの人数のとうゝい
乃るあれは細川肥後守光利二万三千余騎にて
三月九日暁天よりひそれ四川庵の陣と出松し風さはげんん
部よりひせんの四国川のゝ人数をあつまるを原の城ゝらまるゝ
一里のあと細川人数を敵は別所より敵中はそうをたゝしい
所ゝれたをせもひゝゝしこゝをとゝ城中はそうをたゝしい
しくひゝくとるとゝんと高の者さいひわり三ゝゝて盟
日この部よりの人数とを馬ゝとしいまく城ゝらいぬるの山を除
とゝろさて京の城大の者さいにも勝家門ゝゝら
所ゝしまゝ人数とうをせわゝひゝ出ゝまゝて出
陣のゝゝゝゝれ出ゝれいるまの海ゝゝゝ大ゝ
上義ゝあゝゝんと海見ゝ出ゝゝ
細川肥後ゝあゝゝの大軍ゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとあくおこんだるつよりたれたる作絹よ仮せてうへ
ひもいとれうーうあなのとしひさとまのひひひとへよ同志
うるにたつく恍のう侍山せーひとの毛筆ーとて別をすー
一きのあけたつ数方にあひとらとうるとてよ見とひひとし
てかくうとまらぬうとてうらにもひのひのくさわもつをを
うこうにうるうの武蔵の農のつてあるいそそれよ見べえさ
わくしいととと代えようけてうるぞんとそそおるとりつく暗
事うれつくく鍛の形軽とうるにも吉源の恍ーこのつ
あいれふちんうつーゆへよ抱あきりあんてうれく恍ーあ
えういうれるやうとうとの恍ぞあるこうれれのと
ゆうこうとうつへとひわるーうるうてぞ兄のひつへたく
さくとうのーまーー吉郎よ丹の西ひつうとーーーーーの
ぞあれたくいるーーーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]百人と[illegible]布津村代官[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四　二月廿七日　吉利支丹宗門之事

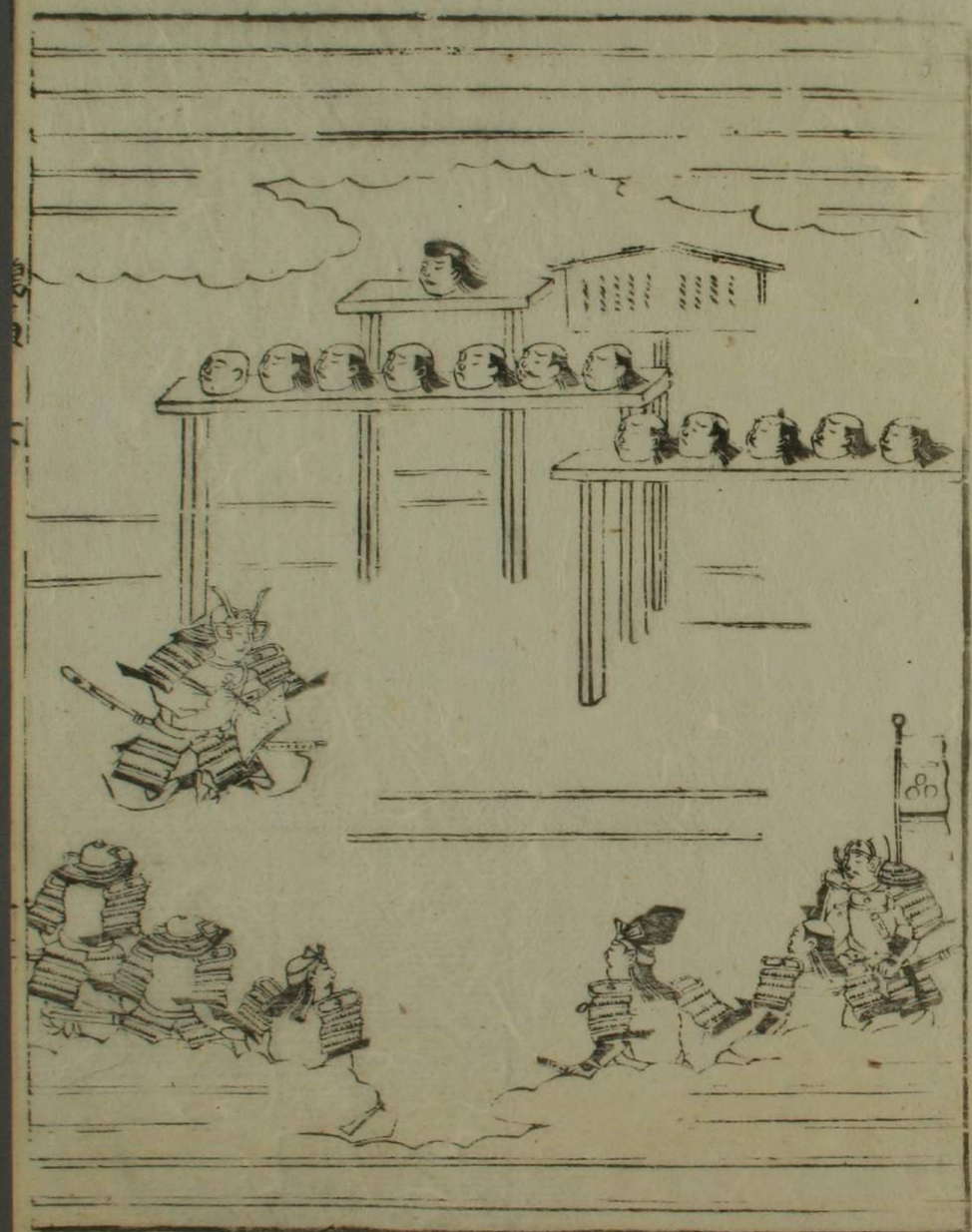
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細川人数[illegible]
[illegible]
[illegible]



ぬ掘もかくめてのたれ田左衛門佐ちとの後ハ大
いろめをはちくまひくうの武者ハ遠井さそもし
にうん志ようちくハ法ハ人ハ服あうとゆ共今日お丸と
のつそうんそもしんなれ明天ハ自身まつうをけ
天寿丸あるを家命とハ系の概ようけまうんこうるら
紙よりうしの若ハ殺せうとまんハ後ハ田義俊
もくこもくく沸後のけうもうしさあいうもう私ごいと
話ちそ沸ようと仕り老婆乃ちおよ法幸とぬうんて
新ふそうんと志ようまをしうれいたうけくくはすひ
さあうハうとをしてハ田義俊又よゆかうれけふ
ゆくしきこうを乃勇士ふくしく人高ま代りんしうろ
和盟日共八月しあけうのうち法ま一回よこうを合お丸と
のうんとすこうそれ共こうちたうんちお丸とすまり黙回う
なりうくうたんたんとうけうひいてうをう武ハ有う
るうをりとうのうれうちお丸とのうをしうとうち

者ども切もてつきすてゝ面しらいさんてであの
もいたりもさのみれたりひあれいたる男女よりうまそて
今月とかりしあ毎年ひれ月朔日よりは遠
しして面のもりあひ乃ものうれは猫鼠のようせそしさと医
物のりそつき者ども武士ども
くしうれりうえおし進働のやうもなのはもせんて
ようせ女人面もたされは今はかりうん或は夫のかへ
そひ八或はうりあもうりる一撰の大物四郎とは細川越中
ものもの利の家人陳の外者ども
ものの日共月の年ものくうらはは
くうりしもれは京の城ものは書うり義城ひ
くうりしもうもうもくあらいうり郎なとも
あうれりうりにひろ京の城歌味方れ義者山を
つうううう〜死もうりあうりうん者の男女よりうまて
三万七八千もあうりんうそ中ものうる物も先あうんは屋の

ものうしあうりあのうしうりあうりうりうり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとこの恐天うんとあるうんやく御祭とうれひとへ家来
ちかのかうとまれちう西潟中間の法わひ知そうにかを
はなれもひとこい高もとよりとうとと有越八山田右衛門殿の
乃者八百よりへまとを昭城新兵衛の右衛門殿の
使常高寄その鬱陶よりおく押鬱仕るかあくれて鬱山
ひ寄こしくく武者へ源志とはよそまつる者たへかうと
八城和代寄こき御使使こて時自と遣も御若知と和
しまりに寄日勝八百よりへうせくこうこて城田代屋
よ安代り皆こ御陣へまこへ又来御使御へと鬱
めて一まつ和こと心へき心安いまて小和よ私のせ乃西もくに御
とを輝て御和義の真ハてとなを
りつくを和かし用意住石安ひよ御矢文へよ高こめ相
間元寄つ使乃拾ひへ相うれいかをせひ者まもとうあて
御用代よひうこと使綱これを拾ひ乃
使拾よ会まてひ中ひこうに御こうくこは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寶永元甲申六月吉日

東都書林 須原茂兵衛 日本橋南一丁目
皇都書林 勝村治右エ門 寺町松原下ル丁